



鉄印旅 樽見鉄道
3 ページ



- ✎ 言いたい放題！アッキー28号（71）
あの日、私は「難民」になった
- ✎ 鉄印旅は、楽しいよ⑨ ～樽見鉄道～2025.4.9～
- ✎ 『作らずにはいられない』29
あなたもしゃぼん玉マスターに
- ✎ 原発賠償関西訴訟第54回期日の報告
- ✎ 今月の五行歌
- ✎ なんちゃって農業女子(47)
- ✎ 竹林に出会う（エッセイサークル文作品）
- ✎ イベント紹介／会計報告／編集後記

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス：lip@love-dugong.net

TEL：070-5653-6913（18時以降）



その日、エミさんは東京にいた。大阪出身の彼女は首都圏で働き、ハマッ子の彼と結婚したばかり。横浜に住むのかと聞いていたら、新居は彼の異動先の福島県浜通り。窓を開けると眼下に広がる美しい海を見ながら、ここで新しい生活を始めるのだと胸をふくらませていた。

ところが、新しい住居ではWiFiがうまく作動せず、パソコンを開くのにやたら時間がかかる。夫の出張中に、東京で便利な付属機器を買い求めようと思い立ち、9時前に家を出て新幹線で上京したのだった。

2011年3月11日午後2時46分。観測史上国内最大規模の地震が東北地方を襲い、大津波が沿岸に押し寄せた。震源地から約200キロ離れた東京でも震度5強で、大きく揺れた。そのときエミさんは、都心中央のレンタルビジネスオフィスにいた。たまたま隣にいた人に、「今日は絶対帰れないと思いますから、一緒に飲みに行きませんか?」と声をかけたが、「自分は家に帰る」と彼は言って、歩き出した。その日東京近郊には、計約515万人の帰宅困難者がいたといわれている。

それでもまだ帰れる家がある人はいない。新居で地震津波に直撃される危機を逃れたのは幸運だったのだから、エミさんはその日から家を喪い、首都圏各地を転々とする事になった。出張中であちこち連絡がついた夫と落ち合い、あちこちのホテル等に泊まる。経済的にも厳しい毎日だ。

そんなとき、鎌倉駅前で、母国で、隣国のチエルノブイリ原発事故を経験したという、ポーランド人のアンナさんという女性に出会った。「妙法寺の山門前に、6時集合」と言われ、

「あの日、私は“難民”になった」

言いたい放題! アッキー28号 (71)

その時間に行くと、たくさんの方が集まっていた。「ここに座りなさい」とアンナさんに言われ、隣に座ると、いろんな国の新聞を見せられ、「ガーディアン*はこう言っている、ほら、こちらとこちらの新聞も、こう報じている。なのに、日本の報道は……。日本人は何を考えているんだ!」殆ど怒られるような口調で、海外で伝えられている原発事故の詳細な報道について教えられた。日本では「直ちに健康に影響を及ぼすことはありません」という説明だけだったが、外国メディアは「過酷事故」の厳しい実相を詳細に伝えていた。

古都の風情と豊かな自然に恵まれた鎌倉は、外国人にも愛され多くの外国人居住者がいた。しかし、母国から「原発事故で危険な日本から退去するよう」と通告が来て、たくさんの人たちが泣く泣く帰国していった。(大好きな土地を去らなければならなかった、あの人たちも、住まいを喪った私と、同じ)。エミさんはそう思った。

一方、アンナさんの行動は迅速だった。ドンドン!と、朝、エミさんのアパートの部屋のドアを叩き、「カマクラ市役所から、レンタルがありましたか?」と聞く。「いいえ」と答えると、翌朝またやって来て、同じ問答を繰り返すと、「何も無い? オー・ノー!」知り合いの市議に働きかけ、東北3県から171人くらい鎌倉市内に避難してきている人がいる、何か支援をしなくていいのかと訴えた。すぐに市議会が動き、鎌倉市内の避難者に月々支援金が給付されることになった。

さすが、鎌倉。すごい! ところで、避難者に対する支援の方策は、各自治体によって異なる

った。近隣の市や隣接の県などでも、何も支援策のないところが多かった。一市民のポーランド人のアンナさんの動きで、市民が動き、避難者のための生活支援策が設けられた。もし、アンナさんがいなければ……。困っている人のためにと、彼女が奔走したからこそ、支援策が生まれたのだ。声をあげることが、どれだけ大切なことが。身に沁みて感じたエミさんは、それ以降、「おかし」と思ったことには躊躇せず声をあげ、「これはいいい」と思ったことは周囲に伝える努力を惜しまない。たとえば映画の上映会は何十回も企画してきた。

そんな話を、私は、傍聴に行っている原発賠償関西訴訟の期日後の報告集会の場で聞いた。

「今お聞きしたことを、情報紙に書いてお伝えしてもいいですか?」前日期日の傍聴記が載っている地域密着型情報紙を手渡してそう聞くと、「いいですよ」とエミさんはにっこり。「名刺代わりにお渡しします」と、上関原発新設に向けたボーリング調査の撤回を求める意見書が提出されたという数年前の新聞記事と、エミさんの名で出された陳情書のコピーをいただいた。おお、こんな風に勇気をもって動いておられるのだ……。

さて、このようにして書いたエミさんのお話だが、次にお会いした時に渡したら、なんとと言われるだろうか。「あなたなりに一歩、踏み出してくれたのね」と言ってもらえたなら、うれしい。

*ガーディアン:イギリスの大手一般新聞

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。

放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』代表
<https://ameblo.jp/challengekids81573/>

【鉄道+御朱印】=[鉄印] ~鉄印旅は、楽しいよ⑨❤️~

~樽見鉄道~2025.4.9~

【樽見鉄道】岐阜県大垣市にある「大垣駅」と、本巣市にある「樽見駅」間の全長 34.5 km を約 65 分程で結ぶローカル鉄道です。大垣駅から途中までは、のどかな田園風景や柿畑の中を走り、それ以降は根尾川の渓谷沿いを走り、四季折々の自然風景をのんびり楽しめます。

【樽見鉄道と薄墨桜】 終点の「樽見駅」近くには、「根尾谷淡墨桜」で有名な淡墨公園があります。

根尾谷淡墨桜(ねおだにうすずみざくら)は、樹齢 1500 余年を誇る孤高の桜。継体天皇お手植えの桜と伝えられ、淡いピンクのつぼみが、満開になれば白に、そして散り際には淡い墨色になることから淡墨桜と名付けられたと言われています。

山梨県の「山高神代桜」と福島県「三春滝桜」と並んで日本三大桜のひとつに数えられ、国の天然記念物に指定されています。過去数回にわたる枯死の危機を乗り越えてきましたが老化が著しく、幹内部にできた空洞も広がりつつありますが、樹木医や地元の人々の手厚い看護によって守られています。

樽見鉄道 ~2025.4.9~

日帰り圏内の樽見鉄道は、いこうと思えば日帰りですくっと行けそうな距離ですが、鉄印集めはじめてすぐから「ここは絶対、桜の時期に行きたい」と思ってルートだけを考えて、春になるのを待っていました。今年はずっとより桜の咲き始めが遅く、仕事の休みと開花情報と天気予報をにらめっこして、一度決めた日を一週間延ばして、万全の日程で出発。鉄印友達と、桜が見たい友達も一緒の三人旅です。

京阪電車で七条まで行き、トコトコ歩いて京都駅へ。JR では米原回り、大垣駅から樽見鉄道はスタートです。大垣駅で、ぎりぎりドトールのモーニングが間に合ったので、優雅に朝ごはんを食べて樽見鉄道に乗ったら、鉄印が貰える本巣駅で途中下車。

そこで一時間程度待ち時間があるので、鉄印を貰った後に、隣駅までのんびり歩いて〈道の駅織部の里もとす〉に向かいました。野菜とかもすごく安く、誘惑に負けそうになりますが、終点から歩くのでグッと我慢。でも、お目当ての〈薄墨桜いろいろ〉と〈折り重ね栗きんとん〉はしっかり買って、お昼ご飯やお花見団子も買って、いざ出発。

道の駅はお隣の〈織部駅〉の隣なのでそこから乗



車します。さすがに桜な見頃の時期なので、平日でも乗客は多めですが、ここからは川沿いに山を登っていくので、外のきれいな景色を見ていたら、あっという間に終点につきました。

ここから歩いて 15 分で、いよいよ今日の本命の薄墨桜です。舗装された登り坂をえっちらおっちら登っていくと、途中からは屋台も色々出ていて、さながら神社のお祭りのようです。「桜を見ながらお昼を食べよう」と色々買い込んだのに、匂いに釣られて五平餅とかまで買って、念願の薄墨桜に到着です。桜の回りをみんな一周回っているの、私たちも写真撮りながら散策。そのあと少し離れたベンチで遠くの桜を見ながら、買い込んだお弁当やおだんごを食べて一休み。

樽見鉄道は 1 時間~1 時間半に一本しか電車がないので早めに戻ったのに、駅についたら整理券はすでに 195 番で「これ、乗れるの? 1 時間ここで待つのか?」と焦った。しかし、電車の輸送力は素晴らしい! さすがに座れなかったけど、つり革も全然余裕なくらいで、電車に乗れました。

外を見ると、車は延々大渋滞。「そういえば、駐車場も満車で大変そうだったよね」と話していたら、二駅ほど離れたところでぞろぞろ人が降りていきます。観光の人もあるかと思いますが、この辺りで車を置いて電車移動の方もいる様子。あっさり座れて快適に大垣まで戻りました。

大垣駅でせっくなのでなんか名物をもうひとつ、と駅前のお店で「水まんじゅう」を食べて、案外スルリと食べられたのもうひとつと探してたら「世界の山ちゃん」の手羽先のお店を見つけて、これまた美味しく頂いて、とても優雅な鉄印旅でした。

(たなべみか)

シリーズ『作らずにはいられない』(29)

あなたもじゃぼん玉マスターに

じゃぼん玉遊びは、子どもも大人も楽しめます。
わたしは、うちの子が小学生の時に、学校の行事でじゃぼん玉の面白さに目覚めました。もう20年も前のことです。

大きいじゃぼん玉ができると、それだけで盛り上がりします。大きなじゃぼん玉を作ろうと、いろいろ試行錯誤して、技として確立したころには、すでにうちの子らはじゃぼん玉も卒業して遊んでくれなくなりましたが、親だけが取り残されて遊び続けています。

保育所や学校などのイベントに呼ばれていくことも増えています。時にはこちらの都合がつかなくて、お断りしなければならぬこともありました。

そこで、じゃぼん玉遊びのノウハウを、講座を開いて伝授して、遊べる人を増やしていくことにしました。遊べる人がどんどん増えて、そこらじゅうで子どもらがじゃぼん玉遊びをしている世の中にしていきたい、そんな風に思っています。

講座で予定している内容を簡単に紹介します。

《じゃぼん液の作り方》

いちばん肝心なのは、じゃぼん液です。自作します。ネットで調べたりすると、いろいろなやり方が出てきます。わたしがじゃぼん玉遊びを始めた20年前とは、情報量も格段に多く、日本だけでなく、世界中にじゃぼん玉愛好家がいることがわかります。

液の作り方も、いろいろ出てきますが、わたしが一昨年、試行錯誤して、できるだけ手軽に作れて、しかも確実に大きなじゃぼん玉ができる液を作りだしたので、その作り方を実際にやってみます。

この液なら、確実に子どもがすっぽり中に入ることができはるはず。また、長さ20メートル級の巨大じゃぼん玉もできると思います。

《道具類の作り方》

遊ぶ道具も自作します。

これもいろいろな方法がありそうですが、わたしが実際に使っているものを作ってみます。

まず、手にもって遊ぶ道具です。針金を輪にして、それに糸や



ヒモなどを巻きつけるタイプ。

棒にヒモを取り付けるタイプ。

いちどにたくさんのじゃぼん玉を作れるタイプのものも、作り方を教えます。

次に、子どもがすっぽり中に入れる道具です。

これも、いろいろ試行錯誤して、今の方法にたどり着きました。液が2リットルもあれば十分遊べる道具で、後片付けも簡単になっています。実は、じゃぼん玉遊びは後片付けがたいへんなので、これは重要ポイントです。

《遊び方》

自作した液と自作した道具で、実際に遊んでみます。

伝授する遊び方のひとは、二重じゃぼん玉の作り方です。大きめのじゃぼん玉の中に、小さなじゃぼん玉を作ります。これはコツを覚えたら、だれでもできると思います。

うまくやると、1つのじゃぼん玉の中に、5つ6つのじゃぼん玉を作れたりします。

子どもが中に入れるじゃぼん玉も、実際にやってみて、遊び方を伝授します。

ここまでやれば、みんな「じゃぼん玉マスター」になれます♪

こんな講座を開く予定です。参加してじゃぼん玉マスターになりたい方は、編集局までお問合せください。

(文 LIP編集局/ひらポン倶楽部 わたなべ)



「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判 ～原発賠償関西訴訟第 54 回期日の報告～

5月29日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第54回期日が開かれました。この裁判は、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが国と東京電力(以下、東電)に対して起こしたものです。

この日の期日は大法廷で行われ、午前中2人、午後2人、事故当時各々相馬市、会津若松市、川俣町、郡山市に住んでいた原告の本人尋問が行われました。傍聴席はほぼ満席でした。

最初に尋問に立った原告男性は、原発事故発生時19歳。スーパーのパート勤務の母と、妹、祖父との4人家族で、高校卒業後信用金庫で働いていました。津波で自宅の1階は床上浸水、電気水道は一時止まったけれど、プロパンガスで、2階で生活を続けることはできた、電力復旧後テレビで建屋爆発のニュースを見て、隣の南相馬市に避難指示が出たことを知り、うち大丈夫か? 家族で相談、事故の1週間後受け入れがあると聞いた滋賀県に避難した、新しい土地で仕事はすぐ見つかったけれど、出費がかさみ苦しい生活、明るかった母だが仕事が決まらずうつ状態に。荷物を取りに元の住居に戻ると、近所の人から裏切者を見るような目線で見られた。生活は原発事故で大きく変わった、いつか福島に戻りたいが、戻れそうにない……。証人台に立ち尋問に答える男性は、33歳。知らない土地に避難して、19歳で一家の生計を担い懸命に生きてきた原告に、「避難をし始めた時、住んでおられた地域の空間線量がどれくらいか、知らなかったんですか?」と被告・東電の代理人は反対尋問で問います。「はい」と答える原告。(あたりまえでしょ、4人家族の責任を負って400kmも離れた土地に避難する、そんな決断を強いられた、高校を出て1年の青年に、自分のいるところの空間線量を調べられたと思う?)傍聴席で聞いていた私は心のなかでつぶやきました。

2人目の原告は、切迫流産で入院中に原発事故が起きました。米国人の夫と生まれたばかりの赤ん坊と共に、一時米国に避難しますが、難病を患っていた夫は、専門医が少なく医療費がばか高い米国で適切な治療を受けることができず病状が悪化、日本に戻り治療を続けますが、33歳で白内障になって



しまいました。新生児の赤ん坊を抱え、難病の夫と共に航空機に乗って避難した……。泣きながら語る原告の言葉に、傍聴席の人々も、裁判所職員も、涙をこらえきれません。尋問時間をオーバーしてしまいましたが、「ここまで」と遮ることなく、裁判長は原告の話最後まで聞いてくれました。

原告はそれぞれに事情は異なりますが、故郷を喪った、絆や生きがいを奪われた、ということは、共通しています。午後1人目の原告は、福島で商家の3代目として生まれ、家の商売を継ぐことを人生の目標としてきました。しかし、幼い2人の娘のために妻の実家のある大阪に避難することを決意。家業の商圏であった飯館村は人口が激減し、祖父の代からの商売も閉じることになりました。事故さえなければ……。2人目の男性は、事故当時1歳の娘と妊婦の妻と共に、しばらく夫婦の実家である中国に避難しました。1か月後日本に戻り、大阪に避難。明るかった長女は保育所になじめず、以来不登校です。「知り合いで福島に残る人もいたが、安全だと思ったから残ったのではなく、家を建てたばかりでもう家が売れないから動けなかっただけだ」との発言も。夕方のミニ報告集会では開口一番、「皆さん、自分の子どもは自分で守りましょう!」困難にも負けない明るい笑顔に、聞いているひとたち皆拍手を送りました。

2023年5月から始まった原告本人尋問も今回で16回。あと2回で終了です。次回第55回期日は、7月10日(木)午前10時～午後3時半。次々回は9月11日(木)午後1時半～午後3時。そして、12月24日(水)午後1時30分から結審の予定です。各々大阪地方裁判所大法廷で行われます。

(文/豊高明枝、写真/堀越善孝)

LIPが選ぶ

今月の五行歌

桑本明枝

モクモクムクムク

野に山に住宅街の植栽に

草木の色が深く濃い

六月は

緑の命の爆発だ

幼い子供には

成長を期待して

子供の日がある

でも大人は成長してるかな

大人の目もないくせに

交通事故に遭い

救急車に乗り

車椅子で移動し

介護タクシーにも乗り

家族の介護にたよった

二等流

貢

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い

詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおも

ったこと、感じたことを、そのまま言葉にして

書きます。枚数では、五行歌ひらかた歌会が、

8月を除き月一度歌会を行っています。
(連絡先: akkie.toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

No.47

なんちゃって農業女子(笑)

今回も「醤油」の報告から……。と思いましたが、三か月経った醤油も、先月とそう大きな変化は見られません。ほぼ毎日、時々さぼりながら攪拌は続けています。前回の投稿後などは、「笑いヨガ」の皆さんにもご協力頂き、みんなで笑いながら攪拌したのです。お陰で？少し分解が進んだ様には思います。でも、分かりにくいので、今回は写真はごさいません。悪しからず……(笑)

さて、今回は「果菜類」について。前回「果樹」のお話でしたが、先日二回目の果樹講座を受講し、「梅」の栽培について学びました。座学の後、梅の実で「梅ジャム」や「梅エキス」の作り方も実習し、とても楽しかったのですが、写真を撮っていませんでしたので、写真のある私の職場の野菜たちの様子をご報告いたします。以前からもご報告しておりますように障がいのある方々と野菜を作るお仕事は私の仕事なので……たまには真面目に仕事している感じで現在の野菜たちをご紹介したいと思います。写真①は、「茄子」で、写真②は、「胡瓜」、写真③は「ミニトマト」です。これら夏野菜の事を「果菜類」と呼びます。実のなる野菜たちです。果樹の勉強をして気が付いたことは、果菜類の成長も、木を見る視点で見ていくと扱いが分かりやすい、ということです。葉物野菜は、種まきしたら収穫まで基本的には放置で大丈夫ですが、果菜類は、枝分かれしたりするのでその枝(脇芽)を取り除く芽かき作業が必要です。果樹で言う所の「剪定」とよく似ていると感じます。この果菜類は、どの様に伸びたいのか？を見て「実」

がたくさんつくようにするには、余計なエネルギーが葉や枝に行かないよう葉っぱや枝を切る事が大事な作業になります。ほったらかしでは実がつきにくかったり大きくならなかつたりするのです。これからが夏本番！！熱中症に気を付けながら、畑の果菜類たちと格闘します。写真④赤紫蘇もたくさん育っています。その報告も……次回へ続く

文・写真／へそくん



写真①



写真②



写真③



写真④

竹林に出会う

澤田 泰夫
(「碧」2025より)

自宅からさほど遠くないところに緑地帯がある。千里ニュータウンの開発当時、計画的に保全されたもの。一帯は雑木林で、かなり広い。古くからの小径やため池のある原風景が、そのまま残る。今日まで人々によって植生が守られ、生きものたちが自然の中で棲み続けている。

緑地帯は人気のある散歩コースだ。四季折々の風情を、私も楽しんでる。この地に住んでよかつたと、歩きながらしみじみ思う。

その一角に竹の植わっているエリアがある。歩けば出会うシーンだが、何の変哲もない、どこにでもある風景。だからいつも気にとめず素通りだった。竹がそこにあっても見ていなかった。興味のないものは見えないのだ。

それが、竹林と関わるようになって変わった。竹を意識するようになった。出会えば必ず立ち止まって見る。あちこちから青竹が顔を出している。まっすぐ空に向かって、スーッと伸びる姿は気持ちがいい。とりわけ手入れの行き届いた竹林は美しい。世界に誇れる美観のひとつだと思う。

竹に興味を持つようになったのは、昨年、地域主催セミナーへ参加してから。「緑地帯に棲むヒメボタルを守ろう」と、長年、保護活動に携わってきた人たちが語りかけた。ヒメボタルは好んで竹林に棲むという。その竹林を守ることがヒメボタルを守り、緑地保全につながる

て、手入れの必要性を訴えた。熱心な活動に賛同し、知人からの勧めもあつて竹林ボランティアへの参加を決めた。

私の竹の知識は知れている。素人同然だ。参加初日から実地指導を受ける。

竹は生育が旺盛で放置すれば繁茂し、周囲の植生を害する。そこでボランテアの出番となる。竹の一本一本を見極め、間伐作業を進める。ノコギリひとつの作業だ。

間伐最初の一本目は、やはりためらった。保全とはいえ、切ることの罪悪感が心が揺らぐ。ひと呼吸置いてから対面する青竹に、すまんとつぶやくようにひと言、そしてノコギリを入れた。太いのがドーンと地面に倒れると、切り口からは水滴がしたたる。

竹は水分をたっぷり含み、思ったより重い。倒れた竹はその後、枝払い、切断、運搬と作業が続く。七十翁にはちよつときつめの筋肉運動。

二、三本もやれば、へたばってしまふ。そんなとき仲間から届く「お茶にしまーす」の声はありがたい助け船。一服のお茶は何ものにも代えがたい。竹の間を吹き抜ける清々しい風を受けながら一息つく。

竹林の中は想像以上に明るい。陽の光が、竹の葉を透けて降りそそぎ、落ち葉を黄金色に輝かせている。神秘的な空気がそこには漂う。決して外からは分からない雰囲気だ。

「ここでピアノ演奏が聴けたら最高の贅沢だろうな。さしずめショパンの夜想曲かな」と、クラシック派の仲間がいう。音楽も悪くないが、読書派の私は、竹枕でもして読書三昧がいい。



竹林に入つて、活動に携わる時間は少ないが、日常に少しの張り、少しの励ましを与えてくれることは、まちがないようだ。

(ヒメボタルは大阪府指定の準絶滅危惧種、吹田市は天然記念物として保護)

枚方市のエッセイサークル文文の澤田 泰夫さんの作品です。
エッセイサークル文文はいつでも会員を募集しています。お気軽にどうぞ。
◆例会 毎月第3金曜日 午後1時〜5時 (8月を除く)
◆場所 生涯学習交流センター 他
年刊の作品集「碧」は枚方市立図書館で借りることができます。

イベント・サークル・ボランティア情報

万博とカジノと私たちの暮らし

万博開幕3ヶ月目となる7月13日、ここで、じっくり「万博」「カジノ」と私たちの暮らしを考えてみませんか？ 講師として万博・カジノ問題をずっと追いかけて来られた西谷文和さんをお迎えします！

- 🌻 とき 7月13日(日) 午後2時～4時
- 🌻 ところ 交野ゆうゆうセンター2F 体験学習室
- 🌻 おはなし 「万博とカジノと私たちの暮らし」(仮題)
西谷文和さん(フリージャーナリスト)
- 🌻 参加費 500円
- 🌻 主催 交野・憲法と暮らしを考える会
連絡先 ☎072 892 4938

※特に予約は必要ありません。どなたでも参加できます。

「みんなといっしょに高校へ行きたい！」

知的障害者を普通高校へ北河内連絡会定例会のご案内

5月の定例会は会場・Zoom 合わせて30名が参加。いつもながら知的障害者を普通高校へ北河内連絡会は、じっくりとお互いの話を聞きあう場は本当にいいものです。

今年の合格者はみんな元気に登校するものの、やっぱり気がかりなのはテストや進級のこと。「大丈夫、話し合うことで高校も教員も変わる。みんな卒業してきたのだから」と具体的なエールが送られます。

小4から続いた不登校が高校に入って一日も休まなくなったとの報告は、感动的。「自分で考えて決断したことだから」と母に話した言葉を聞いて、教員や私たち大人は子どもの力を信じなければと考えさせられました。

静岡から「大阪に学びたい」と直接足を運んでくださった親子は「外国にいるようだ」と感想を述べながら、定員内不合格の理由すらともに開示しない行政の在り方を厳しく批判されました。「学びたい者が誰でも入れる高校があたりまえ」との声が上がりました。

7月の定例会にぜひおいでください。Zoom参加(無料)を希望される方は松森まで(matumori@crux.ocn.ne.jp)

連絡先・松森俊尚 090-1960-3469 関山域子 090-2599-6162

＝第145回 定例会のご案内＝

- とき：2025年7月26日(土)午後1時45分～5時
- ところ：守口文化センター(エナジーホール) 駐車場無し
〒570-0038 守口市河原町8-22 06-6992-1276
京阪守口市駅下車 東口①から出すぐ
- 内容：① 高校受験をめぐる
② 子ども達と学校や生活上の課題、不登校対応
③ 「医療的ケア」の必要な子ども達を巡って
④ 高校卒業後の進路と生活、課題
⑤ 国郵障害者権利委員会勧告、文科省通知
⑥ その他、自由に交流します。
- 主催：知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

【枚方自閉症児(者)親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。

- ◆日時：7月14日(月) 10:00～12:00
- ◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム
- ※連絡先 春名 072-397-0053 団 072-868-7359

応援ありがとうございます♪

LIP 応援団

田中淑子さん、松村良男さん
匿名希望さん

LIP 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
29,841	前号から繰り越し
5	銀行利息
6,000	応援団寄付
▼3,194	7月号用紙
▼500	ロッカー代
▼1,240	6月号印刷代
30,912	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR NOW LOVE & PEACE

◆アメリカ大統領による「広島や長崎と本質的には同じ」というめっちゃめっちゃな戦争行為に対して、世界中で抗議行動が起きたそうだが、G7「主要国」政府はどれも抗議すらしない。あまりのできごとにもなしくなって、AIに「戦争をなくしたいんだけどどうしたらいい？」って聞いてみた。その答えは、【とても大事で重い問いですね。そして、誰もが一度は考えるべきテーマです。戦争をなくすために『一人に何ができるのか?』という疑問は自然ですが、実は一人の力も積み重なれば、大きな流れをつくることができます。以下に、現実的かつ希望を持てるアプローチをいくつか紹介します】として、いくつか具体策を提案してくれた。そして最後に、【あなたが「戦争をなくしたい」と思うことが、すでに平和をつくる第一歩になっています。その気持ちを、ぜひ身近な人と分かち合ってください。それが、世界を変える「静かな革命」になります。】となくさめてくれた。編集後記にこれを書いたのは、その忠告に従ったから。AIは人間を超えたと言われてもわたしには反論できないかも。(w)

◆LIPは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか？

イラスト 表紙、P7：平井由恵



新しいジブン、見つけてみいへん？
枚方で仕事を探すなら！

ひらつー求人

ほぼ枚方市内と近くの求人だけ集めた
枚方つーんの求人情報ページ

ひらつー 求人 🔍

WEBからアクセス ➡

